

わごうじょうせき
「和合城跡」 町指定（史跡）

所在地：坂城町及び上田市 所有者：坂城町南条生産森林組合・上田市下塩尻生産森林組合 指定：
昭和 60 年 7 月 1 日

坂城町の最南端、上田市との境界の虚空蔵山連峰の西端「城ノ山」山頂（標高 654.7m）にある山城です。

城郭は峰の稜線上東西に長く、全長約 117m です。本郭は西端にあって、ほぼ正方形で、周囲に 2 ～ 4 m、高さ 1.5m の土塁をめぐらしており、内側・外側ともに石垣積みになっています。規模は土塁の内法が約 13m です。本郭の東に二の郭があり、東西 15m、南北 12m の長方形で、東と北に土塁を築き、内側に所々石垣積みを残しています。二の郭の南側に半月状の脇小郭があります。二の郭から東下に三の郭・四の郭と続きます。四の郭は東へいくに従って狭まり、東端に高さ 2 m ほどの土塁があって、内側は石積みになっています。この四の郭の東は、上幅 15m、深さ 6 m ほどの薬研形の大きな堀切で、稜線を断ち切っています。

この城は、坂城郷を本拠とした村上氏が、小県・佐久方面に備えて築城した境目城で、天正 11 年(1583)に真田昌幸と上杉景勝が攻防戦を展開したところでもあります。険しい岩鼻の絶壁上にあって容易に人を寄せつけないところから、原形を余りそこなく遺構がよく残っています。

